

2019年
(令和元年)

5月28日

(第三種郵便物認可)
昭和23年4月15日
(毎週火曜日発行)

今号の特集

- ▷中京地区 有力問屋特集 ⑥～⑨面
- ▷乾麺GP 1万人来場 ⑫面

中部飲食料新聞社ホームページ

<http://chuin.net/> 【業界情報発信中】



「味の素」は、うま味調味料です。
さとうきびの糖蜜を発酵させて
つくっています。

第3331号

発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5-18-9
電話 (052)571-7116代表
FAX (052)571-7118

東京支局

東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話 (03)5614-7531
FAX (03)5614-7532

中部飲食料新聞

大正から
食を伝えて100有余年

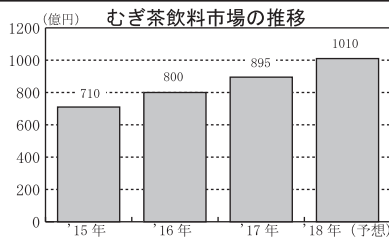
麦茶飲料市場拡大

2010年比で約3倍に

今年も活発な施策見られる

麦茶飲料が着実な伸長を続けている。

飲料の市場規模は、18年が10億1000万と推定。これは10年の約3倍、わずか3年前の15年と比べ1.4倍となり、清涼飲料の中でも成長を続けるテグリーとなる。



麦茶飲料好調の主な要因としては、清涼飲料の大きなトレンドの1つとなる無糖の製品が多数を占めること、ほか、水分補給に加え各種ミネラルなども補給できることや昨今ニーズが高まるノンカフェインであることなど健康面の特性が子どもから大人まで広く支持を得ている。さらに、夏の場のみならず年間を通じて飲用される機会が増えていることも大きな要因に挙げられる。麦茶の最需要期は引き続き夏場であるが、麦茶飲料の通年化は従来の「麦茶」夏の飲み物というイメージを変えてつづける。

味のい「同すつきり健康麦ブレンド」を3月に新発売。定番品との2本柱で様々なニーズに対応するほかスポーツ時などでの飲用も提案する。6月7日までは暑さ対策

春の勲章・褒章

春の勲章及び褒章受章者が発表。食品分野での主な受賞者は次の通り。

春勲章(一部掲載、50音順、敬称略)

〔旭日重経章〕▽浦野光人(元ニチレイ社長、元日本冷凍食品協会会長)▽清水順三(元豊田通商社長)▽藤井良清(元日本ハム社長、元日本ハム・連合会理事長)

ソーセージ工業協同組合副理事長
〔旭日中経章〕▽今村隆郎(元日清オイリオグループ社長)▽中山嘉昭(全水産加工工業協同組合代表理事)▽古川紘一(元森永乳業社長)〔旭日小経章〕▽山口義弘(元清涼飲料協同組合連合会理事長)

日本チエースストア協会総会

「変化対応」「地域との共生」さらに「変革」を推進

ユニー、同協会を脱退

日本チエースストア協会は2019年度通常総会記念パーティーを都内で開催した。

会長挨拶として小濱裕正会長(カスミ会長)は



「近年の消費者心理として、可処分所得が増えず老後の心配などもあることから節約志向が見られる。日本の国際競争力も徐々に下落傾向にあり、今の企業業績は減益の所が多い。小売業は、変化



社長が登壇し「新元号への移行では大変面白いなかでスタートできたと思われ、今後ともラグビーワールドカップなど大きなイベントが予定され、地域と密接な関係があり、地域を起点にものごとを考えることが重要だ」と述べた。

来賓挨拶では自由民主党の加藤勝信総務会長が「地域共生、共生社会の確立は今後ますます重要となり、各会員様にはぜひ地域を元気にして頂きたい」と挨拶。乾杯の発声では特別賛助会員・賛助会員を代表し日清オイリオグループの久野貴久

「森を育む紙製飲料容器」のさらなる普及促進を目的に2004年4月に発足。林野庁をはじめとする関係各所の支援など現在、会員は飲料メーカーや容器メーカー、印刷会社など51社となる。主な活動として、林野庁が進める木育活動などと連携し自治体や関連団体などが主催、開催する環境イベントへ参加。都道府県や市区町村とともに国産材利用拡大と森を育む紙製飲料容器の利用拡大を訴え、国

今年も「カゴメ劇場」を夏休みにも全国で開催。カゴメは食育支援活動及び東日本大震災復興支援活動の一環として「カゴメ劇場2019」を7月20日より全国17会場36

小規模な同族企業では後継者問題が課題である。後継者といえは子息が当然、第一候補である。ところが予定していた子息が別の道を歩むとなると途端に問題が生じる。

ときには「何のために企業経営を行ってきたのだ」といった愚痴も聞かれる。親は「子どもへの継承を夢見て企業経営をしてきた」というのが、多くの企業の経営目的であった訳だから、この不満は大きい。

経営は金儲けのためということに明け暮れてきて、後継者は当初から「身内の者」と決めてきたのだから大困りである。

子息や同族者に無条件で企業の経営を引き継ぐということは、企業の私物化のようであるが、オーナーであれば当然でもある。

しかし後継者が身内に無ければ少しでも早く「他人に任せられない」といった考えと度量を改めて、働く人を再観察して次代の経営者として教育することである。

(大橋隆士)

カゴメ劇場は1972年より開催しており、今年で47回目。次の時代を担う子どもたちの心身の健全な成長を願い、毎年夏休みにも多くの親子を招待する同社オリジナルのミュージカル。また、17年より東日本大震災のチャリティミュージカルとして開催している。

伝えていく。コカ・コーラシステムは、子どもなどがゴクゴク飲めるまろやかですっきりとした味わいのほか、水分とともに塩分も補給できる「Q.O.O(クー)塩分プラス麦茶」を5月20日より新発売した。

ポッカサッポロフード&ビバレッジは日本各地の希少な素材を使用した無糖茶シリーズから、宮城県産六条大麦100%使用の「伊達おいしい麦茶」を2月に発売した。

〔旭日日光章〕▽後藤俊博(元愛知県種苗協同組合理事長)▽田中勝治(全海苔若貝類漁業協同組合連合会副会長)▽平野正男(元北海道漁業協同組合連合会副会長)▽長

〔瑞宝小経章〕▽牛島正美(元名古屋食糧事務所長)

〔森を育む紙製飲料容器普及及協議会〕もりかみ協議会)は5月10日、2019年度定期総会、懇親会を都内で開催した。同協会は紙製飲料容器

「森を育む紙製飲料容器」のさらなる普及促進を目的に2004年4月に発足。林野庁をはじめとする関係各所の支援など現在、会員は飲料メーカーや容器メーカー、印刷会社など51社となる。主な活動として、林野庁が進める木育活動などと連携し自治体や関連団体などが主催、開催する環境イベントへ参加。都道府県や市区町村とともに国産材利用拡大と森を育む紙製飲料容器の利用拡大を訴え、国

今年も「カゴメ劇場」を夏休みにも全国で開催。カゴメは食育支援活動及び東日本大震災復興支援活動の一環として「カゴメ劇場2019」を7月20日より全国17会場36

小規模な同族企業では後継者問題が課題である。後継者といえは子息が当然、第一候補である。ところが予定していた子息が別の道を歩むとなると途端に問題が生じる。

ときには「何のために企業経営を行ってきたのだ」といった愚痴も聞かれる。親は「子どもへの継承を夢見て企業経営をしてきた」というのが、多くの企業の経営目的であった訳だから、この不満は大きい。

経営は金儲けのためということに明け暮れてきて、後継者は当初から「身内の者」と決めてきたのだから大困りである。

子息や同族者に無条件で企業の経営を引き継ぐということは、企業の私物化のようであるが、オーナーであれば当然でもある。

しかし後継者が身内に無ければ少しでも早く「他人に任せられない」といった考えと度量を改めて、働く人を再観察して次代の経営者として教育することである。

(大橋隆士)

カゴメ劇場は1972年より開催しており、今年で47回目。次の時代を担う子どもたちの心身の健全な成長を願い、毎年夏休みにも多くの親子を招待する同社オリジナルのミュージカル。また、17年より東日本大震災のチャリティミュージカルとして開催している。

伝えていく。コカ・コーラシステムは、子どもなどがゴクゴク飲めるまろやかですっきりとした味わいのほか、水分とともに塩分も補給できる「Q.O.O(クー)塩分プラス麦茶」を5月20日より新発売した。

ポッカサッポロフード&ビバレッジは日本各地の希少な素材を使用した無糖茶シリーズから、宮城県産六条大麦100%使用の「伊達おいしい麦茶」を2月に発売した。

〔旭日日光章〕▽後藤俊博(元愛知県種苗協同組合理事長)▽田中勝治(全海苔若貝類漁業協同組合連合会副会長)▽平野正男(元北海道漁業協同組合連合会副会長)▽長

〔瑞宝小経章〕▽牛島正美(元名古屋食糧事務所長)

〔森を育む紙製飲料容器普及及協議会〕もりかみ協議会)は5月10日、2019年度定期総会、懇親会を都内で開催した。同協会は紙製飲料容器

「森を育む紙製飲料容器」のさらなる普及促進を目的に2004年4月に発足。林野庁をはじめとする関係各所の支援など現在、会員は飲料メーカーや容器メーカー、印刷会社など51社となる。主な活動として、林野庁が進める木育活動などと連携し自治体や関連団体などが主催、開催する環境イベントへ参加。都道府県や市区町村とともに国産材利用拡大と森を育む紙製飲料容器の利用拡大を訴え、国

今年も「カゴメ劇場」を夏休みにも全国で開催。カゴメは食育支援活動及び東日本大震災復興支援活動の一環として「カゴメ劇場2019」を7月20日より全国17会場36

小規模な同族企業では後継者問題が課題である。後継者といえは子息が当然、第一候補である。ところが予定していた子息が別の道を歩むとなると途端に問題が生じる。

ときには「何のために企業経営を行ってきたのだ」といった愚痴も聞かれる。親は「子どもへの継承を夢見て企業経営をしてきた」というのが、多くの企業の経営目的であった訳だから、この不満は大きい。

経営は金儲けのためということに明け暮れてきて、後継者は当初から「身内の者」と決めてきたのだから大困りである。

子息や同族者に無条件で企業の経営を引き継ぐということは、企業の私物化のようであるが、オーナーであれば当然でもある。

しかし後継者が身内に無ければ少しでも早く「他人に任せられない」といった考えと度量を改めて、働く人を再観察して次代の経営者として教育することである。

(大橋隆士)

カゴメ劇場は1972年より開催しており、今年で47回目。次の時代を担う子どもたちの心身の健全な成長を願い、毎年夏休みにも多くの親子を招待する同社オリジナルのミュージカル。また、17年より東日本大震災のチャリティミュージカルとして開催している。

伝えていく。コカ・コーラシステムは、子どもなどがゴクゴク飲めるまろやかですっきりとした味わいのほか、水分とともに塩分も補給できる「Q.O.O(クー)塩分プラス麦茶」を5月20日より新発売した。

ポッカサッポロフード&ビバレッジは日本各地の希少な素材を使用した無糖茶シリーズから、宮城県産六条大麦100%使用の「伊達おいしい麦茶」を2月に発売した。

〔旭日日光章〕▽後藤俊博(元愛知県種苗協同組合理事長)▽田中勝治(全海苔若貝類漁業協同組合連合会副会長)▽平野正男(元北海道漁業協同組合連合会副会長)▽長

〔瑞宝小経章〕▽牛島正美(元名古屋食糧事務所長)

〔森を育む紙製飲料容器普及及協議会〕もりかみ協議会)は5月10日、2019年度定期総会、懇親会を都内で開催した。同協会は紙製飲料容器

「森を育む紙製飲料容器」のさらなる普及促進を目的に2004年4月に発足。林野庁をはじめとする関係各所の支援など現在、会員は飲料メーカーや容器メーカー、印刷会社など51社となる。主な活動として、林野庁が進める木育活動などと連携し自治体や関連団体などが主催、開催する環境イベントへ参加。都道府県や市区町村とともに国産材利用拡大と森を育む紙製飲料容器の利用拡大を訴え、国

今年も「カゴメ劇場」を夏休みにも全国で開催。カゴメは食育支援活動及び東日本大震災復興支援活動の一環として「カゴメ劇場2019」を7月20日より全国17会場36

小規模な同族企業では後継者問題が課題である。後継者といえは子息が当然、第一候補である。ところが予定していた子息が別の道を歩むとなると途端に問題が生じる。

ときには「何のために企業経営を行ってきたのだ」といった愚痴も聞かれる。親は「子どもへの継承を夢見て企業経営をしてきた」というのが、多くの企業の経営目的であった訳だから、この不満は大きい。

経営は金儲けのためということに明け暮れてきて、後継者は当初から「身内の者」と決めてきたのだから大困りである。

子息や同族者に無条件で企業の経営を引き継ぐということは、企業の私物化のようであるが、オーナーであれば当然でもある。

しかし後継者が身内に無ければ少しでも早く「他人に任せられない」といった考えと度量を改めて、働く人を再観察して次代の経営者として教育することである。

(大橋隆士)

カゴメ劇場は1972年より開催しており、今年で47回目。次の時代を担う子どもたちの心身の健全な成長を願い、毎年夏休みにも多くの親子を招待する同社オリジナルのミュージカル。また、17年より東日本大震災のチャリティミュージカルとして開催している。

伝えていく。コカ・コーラシステムは、子どもなどがゴクゴク飲めるまろやかですっきりとした味わいのほか、水分とともに塩分も補給できる「Q.O.O(クー)塩分プラス麦茶」を5月20日より新発売した。

ポッカサッポロフード&ビバレッジは日本各地の希少な素材を使用した無糖茶シリーズから、宮城県産六条大麦100%使用の「伊達おいしい麦茶」を2月に発売した。

〔旭日日光章〕▽後藤俊博(元愛知県種苗協同組合理事長)▽田中勝治(全海苔若貝類漁業協同組合連合会副会長)▽平野正男(元北海道漁業協同組合連合会副会長)▽長

〔瑞宝小経章〕▽牛島正美(元名古屋食糧事務所長)

〔森を育む紙製飲料容器普及及協議会〕もりかみ協議会)は5月10日、2019年度定期総会、懇親会を都内で開催した。同協会は紙製飲料容器

「森を育む紙製飲料容器」のさらなる普及促進を目的に2004年4月に発足。林野庁をはじめとする関係各所の支援など現在、会員は飲料メーカーや容器メーカー、印刷会社など51社となる。主な活動として、林野庁が進める木育活動などと連携し自治体や関連団体などが主催、開催する環境イベントへ参加。都道府県や市区町村とともに国産材利用拡大と森を育む紙製飲料容器の利用拡大を訴え、国

今年も「カゴメ劇場」を夏休みにも全国で開催。カゴメは食育支援活動及び東日本大震災復興支援活動の一環として「カゴメ劇場2019」を7月20日より全国17会場36

小規模な同族企業では後継者問題が課題である。後継者といえは子息が当然、第一候補である。ところが予定していた子息が別の道を歩むとなると途端に問題が生じる。

ときには「何のために企業経営を行ってきたのだ」といった愚痴も聞かれる。親は「子どもへの継承を夢見て企業経営をしてきた」というのが、多くの企業の経営目的であった訳だから、この不満は大きい。

経営は金儲けのためということに明け暮れてきて、後継者は当初から「身内の者」と決めてきたのだから大困りである。

子息や同族者に無条件で企業の経営を引き継ぐということは、企業の私物化のようであるが、オーナーであれば当然でもある。

しかし後継者が身内に無ければ少しでも早く「他人に任せられない」といった考えと度量を改めて、働く人を再観察して次代の経営者として教育することである。

(大橋隆士)

カゴメ劇場は1972年より開催しており、今年で47回目。次の時代を担う子どもたちの心身の健全な成長を願い、毎年夏休みにも多くの親子を招待する同社オリジナルのミュージカル。また、17年より東日本大震災のチャリティミュージカルとして開催している。

伝えていく。コカ・コーラシステムは、子どもなどがゴクゴク飲めるまろやかですっきりとした味わいのほか、水分とともに塩分も補給できる「Q.O.O(クー)塩分プラス麦茶」を5月20日より新発売した。

ポッカサッポロフード&ビバレッジは日本各地の希少な素材を使用した無糖茶シリーズから、宮城県産六条大麦100%使用の「伊達おいしい麦茶」を2月に発売した。

〔旭日日光章〕▽後藤俊博(元愛知県種苗協同組合理事長)▽田中勝治(全海苔若貝類漁業協同組合連合会副会長)▽平野正男(元北海道漁業協同組合連合会副会長)▽長

〔瑞宝小経章〕▽牛島正美(元名古屋食糧事務所長)

〔森を育む紙製飲料容器普及及協議会〕もりかみ協議会)は5月10日、2019年度定期総会、懇親会を都内で開催した。同協会は紙製飲料容器

「森を育む紙製飲料容器」のさらなる普及促進を目的に2004年4月に発足。林野庁をはじめとする関係各所の支援など現在、会員は飲料メーカーや容器メーカー、印刷会社など51社となる。主な活動として、林野庁が進める木育活動などと連携し自治体や関連団体などが主催、開催する環境イベントへ参加。都道府県や市区町村とともに国産材利用拡大と森を育む紙製飲料容器の利用拡大を訴え、国

今年も「カゴメ劇場」を夏休みにも全国で開催。カゴメは食育支援活動及び東日本大震災復興支援活動の一環として「カゴメ劇場2019」を7月20日より全国17会場36

小規模な同族企業では後継者問題が課題である。後継者といえは子息が当然、第一候補である。ところが予定していた子息が別の道を歩むとなると途端に問題が生じる。

ときには「何のために企業経営を行ってきたのだ」といった愚痴も聞かれる。親は「子どもへの継承を夢見て企業経営をしてきた」というのが、多くの企業の経営目的であった訳だから、この不満は大きい。

経営は金儲けのためということに明け暮れてきて、後継者は当初から「身内の者」と決めてきたのだから大困りである。

子息や同族者に無条件で企業の経営を引き継ぐということは、企業の私物化のようであるが、オーナーであれば当然でもある。

しかし後継者が身内に無ければ少しでも早く「他人に任せられない」といった考えと度量を改めて、働く人を再観察して次代の経営者として教育することである。

(大橋隆士)

カゴメ劇場は1972年より開催しており、今年で47回目。次の時代を担う子どもたちの心身の健全な成長を願い、毎年夏休みにも多くの親子を招待する同社オリジナルのミュージカル。また、17年より東日本大震災のチャリティミュージカルとして開催している。

伝えていく。コカ・コーラシステムは、子どもなどがゴクゴク飲めるまろやかですっきりとした味わいのほか、水分とともに塩分も補給できる「Q.O.O(クー)塩分プラス麦茶」を5月20日より新発売した。

ポッカサッポロフード&ビバレッジは日本各地の希少な素材を使用した無糖茶シリーズから、宮城県産六条大麦100%使用の「伊達おいしい麦茶」を2月に発売した。

〔旭日日光章〕▽後藤俊博(元愛知県種苗協同組合理事長)▽田中勝治(全海苔若貝類漁業協同組合連合会副会長)▽平野正男(元北海道漁業協同組合連合会副会長)▽長

〔瑞宝小経章〕▽牛島正美(元名古屋食糧事務所長)

〔森を育む紙製飲料容器普及及協議会〕もりかみ協議会)は5月10日、2019年度定期総会、懇親会を都内で開催した。同協会は紙製飲料容器

「森を育む紙製飲料容器」のさらなる普及促進を目的に2004年4月に発足。林野庁をはじめとする関係各所の支援など現在、会員は飲料メーカーや容器メーカー、印刷会社など51社となる。主な活動として、林野庁が進める木育活動などと連携し自治体や関連団体などが主催、開催する環境イベントへ参加。都道府県や市区町村とともに国産材利用拡大と森を育む紙製飲料容器の利用拡大を訴え、国

今年も「カゴメ劇場」を夏休みにも全国で開催。カゴメは食育支援活動及び東日本大震災復興支援活動の一環として「カゴメ劇場2019」を7月20日より全国17会場36

小規模な同族企業では後継者問題が課題である。後継者といえは子息が当然、第一候補である。ところが予定していた子息が別の道を歩むとなると途端に問題が生じる。

ときには「何のために企業経営を行ってきたのだ」といった愚痴も聞かれる。親は「子どもへの継承を夢見て企業経営をしてきた」というのが、多くの企業の経営目的であった訳だから、この不満は大きい。

経営は金儲けのためということに明け暮れてきて、後継者は当初から「身内の者」と決めてきたのだから大困りである。

子息や同族者に無条件で企業の経営を引き継ぐということは、企業の私物化のようであるが、オーナーであれば当然でもある。

しかし後継者が身内に無ければ少しでも早く「他人に任せられない」といった考えと度量を改めて、働く人を再観察して次代の経営者として教育することである。

(大橋隆士)

カゴメ劇場は1972年より開催しており、今年で47回目。次の時代を担う子どもたちの心身の健全な成長を願い、毎年夏休みにも多くの親子を招待する同社オリジナルのミュージカル。また、17年より東日本大震災のチャリティミュージカルとして開催している。

伝えていく。コカ・コーラシステムは、子どもなどがゴクゴク飲めるまろやかですっきりとした味わいのほか、水分とともに塩分も補給できる「Q.O.O(クー)塩分プラス麦茶」を5月20日より新発売した。

ポッカサッポロフード&ビバレッジは日本各地の希少な素材を使用した無糖茶シリーズから、宮城県産六条大麦100%使用の「伊達おいしい麦茶」を2月に発売した。

〔旭日日光章〕▽後藤俊博(元愛知県種苗協同組合理事長)▽田中勝治(全海苔若貝類漁業協同組合連合会副会長)▽平野正男(元北海道漁業協同組合連合会副会長)▽長

〔瑞宝小経章〕▽牛島正美(元名古屋食糧事務所長)

〔森を育む紙製飲料容器普及及協議会〕もりかみ協議会)は5月10日、2019年度定期総会、懇親会を都内で開催した。同協会は紙製飲料容器

「森を育む紙製飲料容器」のさらなる普及促進を目的に2004年4月に発足。林野庁をはじめとする関係各所の支援など現在、会員は飲料メーカーや容器メーカー、印刷会社など51社となる。主な活動として、林野庁が進める木育活動などと連携し自治体や関連団体などが主催、開催する環境イベントへ参加。都道府県や市区町村とともに国産材利用拡大と森を育む紙製飲料容器の利用拡大を訴え、国

今年も「カゴメ劇場」を夏休みにも全国で開催。カゴメは食育支援活動及び東日本大震災復興支援活動の一環として「カゴメ劇場2019」を7月20日より全国17会場36

小規模な同族企業では後継者問題が課題である。後継者といえは子息が当然、第一候補である。ところが予定していた子息が別の道を歩むとなると途端に問題が生じる。

ときには「何のために企業経営を行ってきたのだ」といった愚痴も聞かれる。親は「子どもへの継承を夢見て企業経営をしてきた」というのが、多くの企業の経営目的であった訳だから、この不満は大きい。

経営は金儲けのためということに明け暮れてきて、後継者は当初から「身内の者」と決めてきたのだから大困りである。

子息や同族者に無条件で企業の経営を引き継ぐということは、企業の私物化のようであるが、オーナーであれば当然でもある。

しかし後継者が身内に無ければ少しでも早く「他人に任せられない」といった考えと度量を改めて、働く人を再観察して次代の経営者として教育することである。

(大橋隆士)

カゴメ劇場は1972年より開催しており、今年で47回目。次の時代を担う子どもたちの心身の健全な成長を願い、毎年夏休みにも多くの親子を招待する同社オリジナルのミュージカル。また、17年より東日本大震災のチャリティミュージカルとして開催している。

伝えていく。コカ・コーラシステムは、子どもなどがゴクゴク飲めるまろやかですっきりとした味わいのほか、水分とともに塩分も補給できる「Q.O.O(クー)塩分プラス麦茶」を5月20日より新発売した。

ポッカサッポロフード&ビバレッジは日本各地の希少な素材を使用した無糖茶シリーズから、宮城県産六条大麦100%使用の「伊達おいしい麦茶」を2月に発売した。

〔旭日日光章〕▽後藤俊博(元愛知県種苗協同組合理事長)▽田中勝治(全海苔若貝類漁業協同組合連合会副会長)▽平野正男(元北海道漁業協同組合連合会副会長)▽長

〔瑞宝小経章〕▽牛島正美(元名古屋食糧事務所長)

〔森を育む紙製飲料容器普及及協議会〕もりかみ協議会)は5月10日、2019年度定期総会、懇親会を都内で開催した。同協会は紙製飲料容器

「森を育む紙製飲料容器」のさらなる普及促進を目的に2004年4月に発足。林野庁をはじめとする関係各所の支援など現在、会員は飲料メーカーや容器メーカー、印刷会社など51社となる。主な活動として、林野庁が進める木育活動などと連携し自治体や関連団体などが主催、開催する環境イベントへ参加。都道府県や市区町村とともに国産材利用拡大と森を育む紙製飲料容器の利用拡大を訴え、国

今年も「カゴメ劇場」を夏休みにも全国で開催。カゴメは食育支援活動及び東日本大震災復興支援活動の一環として「カゴメ劇場2019」を7月20日より全国17会場36

小規模な同族企業では後継者問題が課題である。後継者といえは子息が当然、第一候補である。ところが予定していた子息が別の道を歩むとなると途端に問題が生じる。

ときには「何のために企業経営を行ってきたのだ」といった愚痴も聞かれる。親は「子どもへの継承を夢見て企業経営をしてきた」というのが、多くの企業の経営目的であった訳だから、この不満は大きい。

経営は金儲けのためということに明け暮れてきて、後継者は当初から「身内の者」と決めてきたのだから大困りである。

子息や同族者に無条件で企業の経営を引き継ぐということは、企業の私物化のようであるが、オーナーであれば当然でもある。